

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）																	
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 多様化・複雑化する社会を理解する力		2. “生きること”につながる専門性				3. 自己を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力				
					知識						姿勢			行動								
A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C			A-1	D-1	D-2											
26MARC1120	建築保存修復インターンシップ	1・2	建築保存修復の実務実習により、研究機関や工務店等で行われる様々な保存修復関連の実務を体験し、建築保存修復の実務内容およびそのプロセス、研究者・設計者・技能者等が協働した保存修復の手法等、保存修復実務の全体像を理解することを目的とする。	建築保存修復の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。								○		○	◎	◎	◎			○	○	
26MARC1119	建築設計実務	1・2	学内外の実案件を対象にした建築設計の実務実習により、建築設計・工事監理関連の実務を長期にわたって体験する。教員の指導のもと、建築設計や工事監理の実務内容およびそのプロセス、構造・設備設計者や施工者等の多くの専門家との協働の仕方や施工の状況を実地で学び修得することを目的とする。	建築設計・工事監理の実務にかかわる実践的知識を修得することにより、コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの中で、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身につける。これにより、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。								○		○	○	○			◎	◎		
26MARC1211	建築設計総合演習A	1	原寸大の空間を共同で制作し、その原初的・直接的・身体的な体験により、図面や模型のみによる図式的、操作的な設計方法の矛盾を理解する。その理解に基づき、より高度で実践的な設計課題に取り組むことを目的とする。これにより、今後の実務実習において最低限必要となる実践的な設計能力を伸ばす。	住環境を、実在するモノと空間からなる存在として具体的に設計する能力の養成を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を修得し、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を培う。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○			○
26MARC1213	建築設計技術演習A	1	「建築設計総合演習A」と連携し、設計課題を構造・環境・設備・施工等の技術面から検討し、諸要求に応えつつ、様々な制約条件を克服しながら建築空間として総合するための演習を行うことを目的とする。これにより、今後の実務実習において最低限必要となる実践的な技術・知識を学ぶ。	建築の安全性や快適性などを確保するために重要な、構造・環境・設備・施工に関する基礎的・先端的技術を修得し、理解した知識の統合により問題を解決する実践的能力を培う。	○	◎	◎	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26MARC1210	建築設計総合演習B	1・2	国外に目を向け、その地域の歴史、風土、文化について深く考慮した建築を設計する。これによりグローバルな視座と歴史的価値観を養う。また、原寸大の空間を設計、制作する。その原初的・直接的・身体的な体験を通して、実際の材料に親しむとともに、図面や模型による図式的、操作的な世界と実際の空間との対応を体得することを目的とする。これにより、今後の実務実習等において必要となる実践的な設計能力を伸ばす。	住環境を、実在するモノと空間からなる存在としてより具体的に設計する能力の修得を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身につけ、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力をより向上させる。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎			◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）												
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目						○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目						
					1. 多様化・複雑化する社会を理解する力		2. “生きること”につながる専門性				3. 自分を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れない姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識						姿勢			行動			
A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	C			A-1	D-1	D-2						
26MARC1219	建築設計技術演習B	1・2	「建築設計総合演習B」と連携し、設計課題を構造・環境・設備・施工等の技術面から検討し、諸要求に応えつつ、様々な制約条件を克服しながら建築空間として総合するための演習を行う。これにより、今後の実務実習等において必要となる実践的な技術・知識を学ぶ。	建築の安全性や快適性などを確保するために重要な、構造・環境・設備・施工に関する基礎的・先端的技術を吸収し、習得した知識の統合により問題を解決する実践的能力をより向上させる。	○	◎	◎	○				○	○	○	○	○	○
26MARC2212	修士設計	2	5年半で修得した「真」「善」「美」の集大成として、各自がテーマを設定し、それに基づく研究を進め、得られた新たな知見を空間構成として総合化し、その成果を建築設計にまとめプレゼンテーションする。これにより修士課程修了後、建築家として、社会で自律的に行動し、活躍する上で必要な高度知的専門職能を確立することを目的とする。	「真」「善」「美」を互いに総合し、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。また人間的な住環境の形成のために、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
26MARC2202	修士論文	2	5年半で修得した「真」「善」「美」の集大成として、各自がテーマを設定し、それに基づく研究を進め、得られた新たな知見に基づき論理的展開を進め、その成果を学術論文にまとめプレゼンテーションする。これにより修士課程修了後、建築家として、あるいは専門家、研究者として自律的に行動し、活躍する上で必要な高度知的専門職能を確立することを目的とする。	「真」「善」「美」を互いに総合し、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生するために重要な問題解決能力を実践的に修得する。また人間的な住環境の形成のために、継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。	◎	○	○	○		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
26MARC1322	建築家の職能と倫理	1	実務実習において実践的な設計実務を修得する上で重要な、一人の人格としての建築家の職能、社会的役割、責任、倫理、建築家を取り巻く社会問題に関する実践的な知識・能力を修得することを目的とする。	建築家を取り巻く社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を修得し、社会的義務と責任を重んじ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。								◎	◎	◎			
26MARC1324	建築計画マネジメント論	1	実務実習において実践的な設計実務を修得する上で重要な、建築や都市の計画・開発から設計・工事監理に至る幅広い業務に携わる専門家として必要な倫理と実務的な業務の流れを学ぶ。設計・工事監理業務を適正かつ円滑に進めるための、幅広くかつ実践的なマネジメント知識・能力を修得することを目的とする。	コスト、スケジュールなど様々な制約条件と、建築設計・工事監理を取り巻く社会の仕組みや現代社会の問題点を理解した上で、自律的活動ができる職能人として、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。				◎				◎	◎	◎		○	○

